

寺田寅彦が書いた奥村鶴吉編『野口英世』[推薦文]の初出

四宮義正

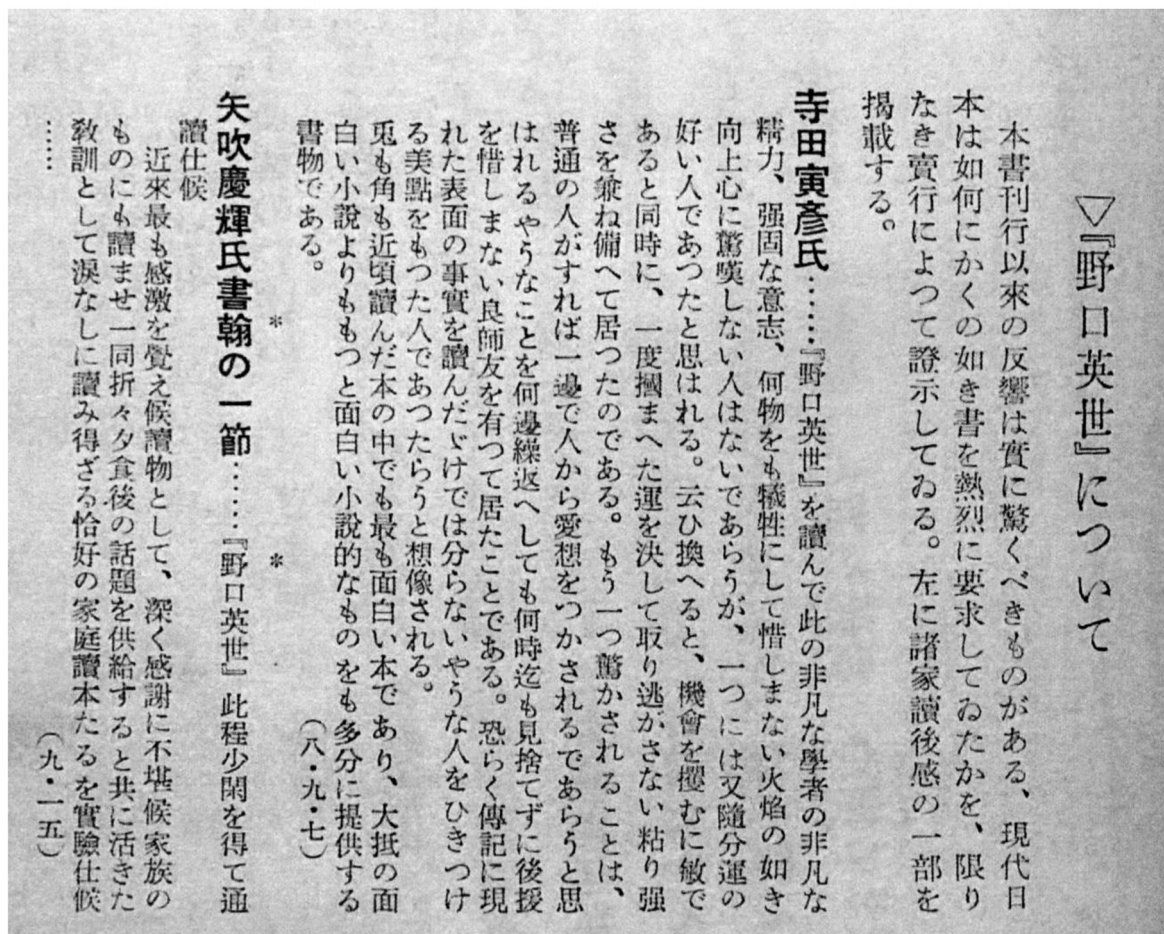
『榭』第 32 号に大森一彦さんが「寺田寅彦が書いた奥村鶴吉編『野口英世』[推薦文]の初出の判明」として書かれている。

それによると、標記の推薦文は、第一次『寺田寅彦全集』文学篇・第 16 卷「雑篇」（昭和 13・1・10、岩波書店）に収められ、最新版全集では第 16 卷「書評・序文ほか」（平成 10・3・19）に現代表記に改められて、収められている。しかし初出未見となっていたため、調査の結果、初出紙を見出したとのことである。それは、「東歯学生会水橋新聞」第 79 号（昭和 9 年 2 月 9 日）であり、記事の写真が掲載されている。

しかし、上記の新聞より早く『思想』（岩波書店）に掲載されていることが判った。管見の範囲で、順を追って書いてみる。

1. 昭和 8 年 7 月 5 日。岩波書店から奥村鶴吉編『野口英世』が刊行される。
2. 同年 9 月 7 日。寺田寅彦が同書の読後感を執筆する。
3. 同年 10 月 1 日。『思想』（第 137 号）奥付ページに寺田寅彦の感想文が掲載される。

下に全体を示す。



4. 昭和9年2月9日。寅彦の感想文が『東歯学生会水橋新聞』に転載される。奥村鶴吉が東京歯科医専教授だった関係であろう。他の人の感想も掲載されている。この時、タイトルが「偉人『野口英世』」となり、肩書が「東京帝国大学教授 医学博士」と誤って記されている。

5. 同年5月25日。寅彦の感想文が『東京歯科医専教授医学博士 奥村鶴吉編『野口英世』諸家読後の感想』(野口英世博士記念館創立事務所)に転載される。肩書は「東京帝大教授理学博士」である。また、文末が(八・九・七)一思想広告ヨリ一となっていて、今回の調査の手掛かりになった。

この小冊子は、ほぼA5判・32ページで、土井晚翠のエピローグ(詩)をはじめとして、鳩山一郎、徳富蘇峰、齋藤茂吉、秦佐八郎、桜井忠温など31名の読後感をまとめ、最後に奥村鶴吉の「思い出づるまゝに」が載っている。

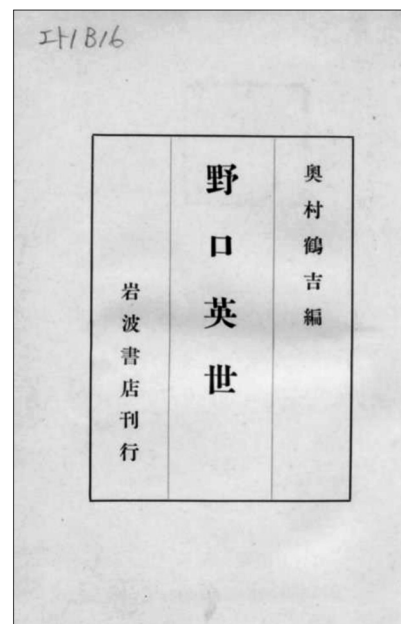
6. 昭和13年1月10日。第一次『寺田寅彦全集』文学篇・第16巻「雑篇」に寅彦の感想文が収載される。タイトルは「奥村鶴吉編『野口英世』」となっている。

以上のような流れである。しかし、同じ岩波書店の雑誌である『思想』に掲載された文章なのに「初出未見」となっているのは、ちょっとおかしいというか、残念である。

(注) 旧漢字は新漢字に変更した。また仮名遣いを変更したところがある。



「奥村鶴吉編『野口英世』諸家読後の感想」表紙



奥村鶴吉編『野口英世』扉
(国立国会図書館蔵)